

# 昭和53年度 和歌山県文化奨励賞

つもと とら きち  
津 本 寅 吉 (ペンネーム つもと よう  
津本 陽)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県

生 年：昭和4年

## ◎業績及び経歴

昭和26年東北大学法学部卒業後サラリーマン時代があり、その間、囲碁を通じて多田道太郎氏や故高橋和己氏と知り合い、文学の道に進むことを決意され、昭和39年から和歌山に帰り、家業の不動産業を営むかたわら、紀州を舞台とした私小説風の作品を多く書かれてきた。

同年「VIKING」の同人となる。

直木賞候補にあがったのは二回目で、処女作「春の中の死」を発表して1年後三作目の「丘の家」が41年上半年期直木賞候補にのぼった。

第79回直木賞「深重の海」は、時代遅れの古式捕鯨を守りながら、村の発展に命をかける太地の漁師たちの人間ドラマで、昭和50年から3年「VIKING」に連載されたものである。

受賞後の第1作は「昭和20年1月19日」の題で、学徒勤労動員中の空襲体験を描き、文芸春秋別冊秋号に発表された。いま、紀州藩士の秀才が、和歌山を舞台に大泥棒になり下った話しを書かれているが、今後も和歌山を題材に書き続けられる。